

- 地域活動支援センター『UNEHAUS ウネハウス』を拠点に米や野菜の栽培のほか山野に自生する植栽を採取し、障害者と生活困窮者等が地域の高齢者と協働で農産物等の加工・販売を行い地域に貢献。

基本情報

- 所在地：新潟県長岡市
- 活動地域：中間農業地域
- 団体名：認定特定非営利活動法人UNE
- 選定表彰：
 - ・ H31 全国どぶろく研究大会in遠野 優秀賞
(主催：第13回全国どぶろく研究大会実行委員会)
 - ・ R2 新潟県優良経営体等表彰（農福連携の部）農業会議会長賞（主催：新潟県）
 - ・ R2 ノウフクアワード2020 優秀賞
- 主力商品：どぶろく、農家レストラン、農家民宿、クロモジ茶、よもぎ
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- 障害者、高齢者、生活困窮者など多様な人材が米や野菜の栽培のほか「福祉市民体験農園OasisR」や「農家レストラン」「農家民宿」「キッチンカー」等の運営や「どぶろく雪中壺乃界」の製造に携わっている。
- 薬用商品の原料供給を目的に山野に自生するヨモギ、笹、クロモジなどを採取し調整、加工、出荷を行い障害者等の多様な人々の就労につながる取組を行っている。



福祉体験農園OasisR

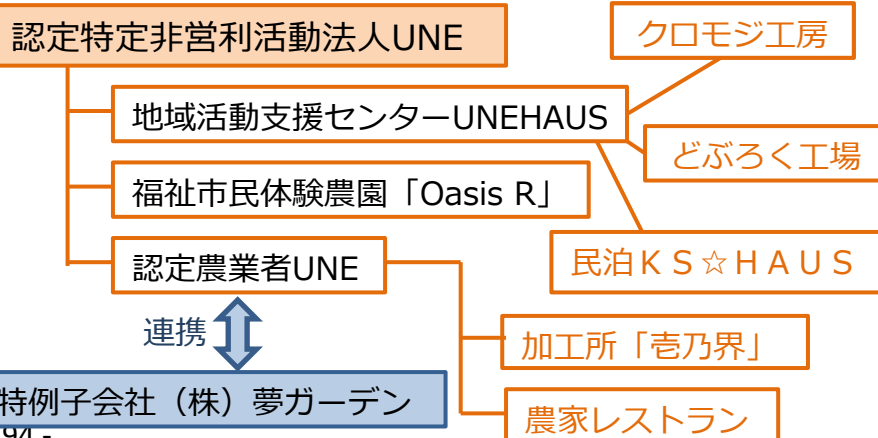


農家レストラン



薬用商品の原材料の加工

体制図



取組の成果

- NPO法人として県内で初めて農業に参入、翌年には認定農業者となり、中山間地域の担い手となる。
- クロモジの栽培と併せ、山林のクロモジを採取し医薬品会社に出荷、また、クロモジ加工品を製品化し需要を喚起することで、山林の整備にも貢献。
- 地域の特産物として、付加価値の高い商品作りに取り組んだことで年々売上が上昇し、工賃も向上
(売上1,061万円 (H27) → 1,900万円 (R5))

所在地 ▶ 新潟県長岡市一之貝869

連絡先 ▶ TEL : 0258-86-8121 FAX : 0258-86-8131 E-mail : une_aze@yahoo.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.une-aze.com>

【取組のプロセス】

社会的弱者が地域で安心して暮らせる環境作りに取組む。

平成16年

きっかけ

新潟県中越地震をきっかけに、障害者や高齢者にはいっそうの支援が必要と感じる。

平成24年、特例子会社「(株)夢ガーデン」が設立され、連携する。

平成23年

NPO法人として県内で初めて農業に参入

- 平成23年4月、障害者地域活動支援センターUNEHAUS（ウネハウス）と特定非営利活動法人UNEを設立。
- 平成24年、障害者と家族による野菜づくり活動などを経て、NPO法人として県内で初めて本格的に農業に参入。
- 平成25年、認定農業者となり、農業だけではなく地域の活動に積極的に参加。



UNEHAUS（ウネハウス）

福祉農園等整備事業（H29）、農福連携サポーター養成・派遣支援事業（R2）を活用

平成25年

農家レストラン、どぶろく製造、農家民宿、様々な仕事

- 平成25年、農家レストランの営業を開始。農業だけでなく農家レストランや加工、作業請負など、様々な事業を展開することで、障害者や高齢者等それぞれの適性に応じた仕事の場を創出。
- 平成27年、どぶろく製造を開始。翌年にはUNEHAUSで簡易宿泊営業許可を取得。



どぶろく「雪中壺乃界」

薬用飲料の原料となるヨモギ栽培に着手し、条件の悪いほ場も活用。

平成30年

福祉・市民体験農園、クロモジ工房をオープン

- 平成30年、長岡市街の河川敷に「福祉・市民体験農園Oasis R」を開園。同年、クロモジ工房をオープン。クロモジ茶、クロモジミストを生産。
- 平成31年3月、認定NPO法人となり、広く地域貢献事業「送迎や雪下ろし等」で活躍。



ヨモギの収穫

全国どぶろく研究大会農芳醇の部優秀賞（H31）、新潟県優良経営体等表彰農福連携の部農業会議会長賞（R2）受賞

令和2年

ノウフク・アワード2020 優秀賞受賞

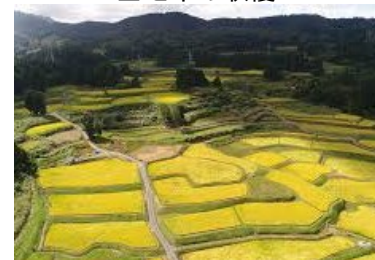
- 令和2年、ノウフク・アワード2020 優秀賞受賞
- 農福連携の普及啓発のため、農福連携サポーター養成講座を開講し人材育成に取り組む。
- 令和5年より農福連携を活用した、ひきこもり支援を開始。

（R4）農山漁村振興交付金（農福連携対策）簡易整備型でUNEHAUSに作業場を整備

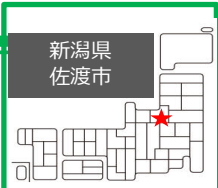
今後の展望

中山間地域で新たな里山集落コミュニティを構築

- 障害者、高齢者、生活困窮者、ひきこもり等の受け入れを行うとともに、生き生きと働き、社会参画を果たし、生活できる環境を作り「コミュニティ・ソーシャル・ファーム」の実現を目指す。
- 育成した農福連携サポーターを通じ、農家と障害者の間に立ち農福連携を推進するとともに、新潟県内に農福連携の運動を普及していきたい。



越後一之貝の棚田



地域の高齢化による労働力不足の解決に向け、就労継続支援B型事業所「障がい者就労トレーニングファームチャレンジド立野」を運営し、佐渡市内の障害者を受け入れ、農作業や地域のボランティア活動に取り組む他、古民家を改修したカフェ「アートサロン和（やわらぎ）」に障害者が制作した絵画や工芸品の展示、農産物や加工品の販売も行っている。

基本情報

- 所在地：新潟県佐渡市
- 団体名：特定非営利活動法人 立野福祉会
- 取組パターン：福祉完結型
- 選定表彰：
 - 平成30年 感謝状（立野集落）
 - “ ディスカバー農山漁村の宝 選定（北陸農政局）
 - 令和3年 ノウフク・アワード2021 審査員特別賞「地域を耕す」
- 主力商品・イベント：
 - 米（自然栽培）、採種かんらん（キャベツ）、米粉菓子（ビスコッティ）、あんぼ柿、佐渡番茶（焙じ茶）、花卉（アスター、寒菊）、黒豆（自然栽培）、とうもろこし
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- 障害の程度により、作業を切り出し、各人の適正に応じた工程を任せることで、効率化と障害者のやりがいを創出している。
- 季節や天候に留意した作業内容や休憩時間等を取り入れることで、障害者が働きやすい環境をつくり、就労人数の増加を図っている。
- かんらんやアサガオの採種、日本スイセンの球根栽培を取り入れ、工賃アップを図っている。



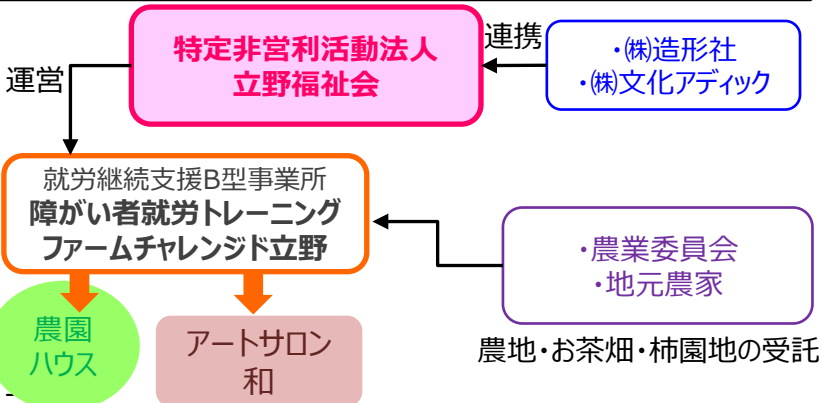
項目	単位	取組当初	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
障害者数	人	5	22	23	27	27	30
荒廃農地解消	a	8	14	24	27	27	27
工賃総額	千円	1,637	3,885	5,164	5,810	6,047	6,168

取組の成果

- 障害者の活躍により、耕作放棄地の解消と地域農業の維持が図られている。
- 受託作業に取り組む障害者は、月5～6万円の収入が得られている。
- 6ヶ月以上の一般就労に繋がった方は、現在9名となっている。
- アートサロン和の開設により、地域との交流、さらに地域外からの来訪者も増加し、地域活性化に繋がっている。

所在地 ▶新潟県佐渡市立野252番地
 連絡先 ▶TEL:0259-67-7774 FAX：－
 E-mail:challengedtateno@sky.plala.or.jp
 ウェブサイト▶<https://tateno-fukusikai.amebaownd.com/>

体制図



【取組のプロセス】

島内企業の減少や縮小。集落の高齢化と農業の担い手不足。

法人の社員10名はすべて集落の方が担い、集落からの協力体制が整う。

2013年
4月～

きっかけ

働きたくても働く場がない障害者と、担い手不足の農業をマッチングするため、小規模作業所を開設し、利用者5名、職員1名で農業を開始した。

2013年
7月～

NPO法人格を取得し、利用者を増員

- 「地域住民と一体で、農業を通して障害者の自立と自律を支援し、地域活性化をする」ことを目的に、企業の協力のもと、加工部門は作業所で、販売は協力企業が行う形で事業スタート。
- 2014年4月、「地域活動支援センター」に改変し、利用者を7名とした。



農地受託で農業委員会に登録。認定農業者取得。

2015年
4月～

就労継続支援B型事業所「障がい者就労トレーニングファーム チャレンジド立野」に改変。定員を10名に増員。

- 「チャレンジド＝挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人」という前向きな言葉を施設名として、農福連携を推進。
- 日本農福連携協会、自然栽培パーティ、JA佐渡自然栽培研究会に加入し、自然栽培取り組む。生産物を活用した加工品で製菓販売を行う。



農家が一番必要とする短時間労働の受託や集落の困り事（古紙回収、除雪など）解消で集落の一員として存在感が増す。

2017年～

障がい者就労トレーニングファームチャレンジド立野の定員をさらに増加。

- 2017年6月、定員15名→2018年、定員20名に改変。
- 2018年、農山漁村振興交付金を活用し、地域の方や障害者の拠り所であり、情報発信の場となる、アートサロン和と加工場を開設。

集落の高齢化により春の用水路の掃除への参加人数は2018年よりチャレンジド立野の方が多くなる。

2022年～

障がい者就労トレーニングファームチャレンジド立野の登録者の増加。

- 2022年、毎日利用する方よりも月に1回、週に2回といった少ない日数の利用者数が増加。

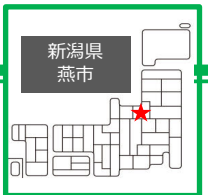
今後の
展望

耕作放棄地解消にと水田受託が増えた事で集落での存在感が増し、将来の地域計画に於いて無くてはならない一員となっている。

「挑戦する」気持ちを大事にし、「お互いさま」の精神で地域とともに成長したい

- 更なる6次産業化を目指し、新商品の開発に挑戦する。
- アートサロン和を通じ、農福連携の情報発信を行う。





水耕栽培を通じて、障害者一人一人のニーズや目標に応じた支援に取り組み、地域から求められる就労支援施設を目指す。

基本情報

- 所在地：新潟県燕市
- 団体名：株式会社なごみ
なごみの水耕（就労継続支援B型事業所）
- 選定表彰：－
- 主力商品・イベント：にんにくスプラウト、レタス、バジル、エディブルフラワー

取組の概要

- 現在22名/日が施設内で作業を実施。栽培品目は、にんにくスプラウトと葉物野菜（レタス、バジル、エディブルフラワーなど）。
- 作業内容は、にんにくスプラウトの場合、①皮むき、②専用容器への定植、③収穫の3つ。葉物野菜においては定植・収穫に加えて播種作業もある。その他肥培管理は機械が自動的に行うシステムとなっている。
- 障害の程度に応じてどのような作業ができるかを見極めながら役割分担を決めている。

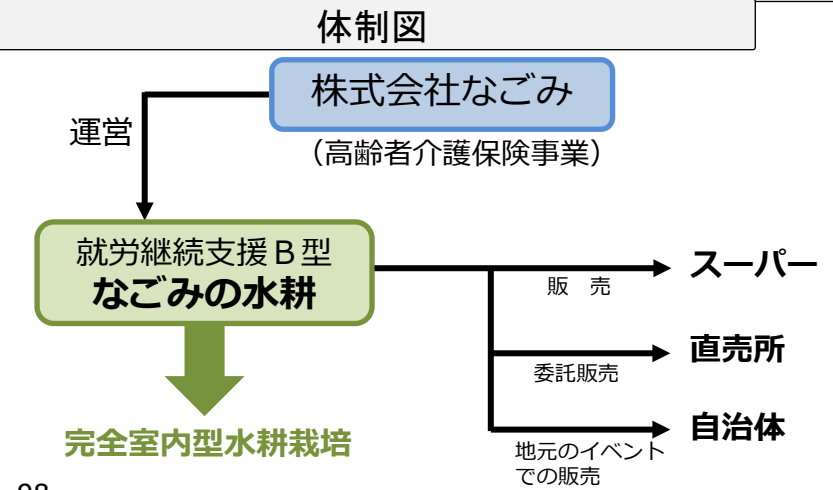
項目	単位	取組当初	R4年
障害者数	人	21	36
農地面積	a	1	1
工賃総額	千円	1,118	3,233

にんにく皮むき作業

出荷・調製作業

レタス収穫作業

エディブルフラワー



取組の成果

- 播種～収穫～販売まで全ての仕事に携わることで、やりがいを感じてもらえている。
- 相談支援員からは、「入所前より表情が良くなった」、「症状が改善した」という声を聞いており、水耕栽培に取り組んだ成果が出ていることを実感している。

所在地▶新潟県燕市水道町4-8-28（なごみの水耕）
連絡先▶TEL: 0256-47-5005 E-mail:suikou@nagomi-care.jp
ウェブサイト▶<https://suikou4.wixsite.com/my-site>

【取組のプロセス】

平成28年

きっかけ

利用者一人一人が“やりがい”を持って作業にチャレンジできる！
そのような環境を整備したいと考え、完全室内型水耕栽培の導入に着手

令和3年5月開所

令和3年

販売先のニーズに
合わせ導入作物を選定。
協力機関と連携しな
がら安定生産を目指
す。

販売・接客対応を
通じて、「自分た
ちで作った野菜を
食べてもらえる」
といった喜びや
りがいを感じること
ができる。

今後の
展望

障害者就労継続支援B型事業所「なごみの水耕」を開設

- 天候に左右されず、通年で快適な環境の中作業ができる室内型の水耕栽培施設を開設。利用者自ら作物を育てることができる環境を整備。

水耕栽培の知識・技術の習得／栽培管理

- 当施設の職員が、同じように水耕栽培に取り組んでいる事業所の現地視察等を行うことで知識・技術を習得した。技術的に分からないことがあれば、指導していただいた方と連絡を取り、相談しながら対応している。

収穫物の販売

- 収穫物は当施設で販売するほか、スーパーや地元直売所での委託販売などを実施。季節ごとのイベントにも積極的に参加し、利用者自ら販売員として売り場に立っている。

水耕栽培を通じて利用者とともに成長する

- 利用者と相談しながら商品企画やPR資材の制作を行い、少しずつ販売先を確保・拡大中。今後も新規販売先の獲得を目指し、より良い品質の野菜を多くの方の食卓に届ける。
- 利用者に対して、これからも一人ひとりのニーズや目標に応じた支援・環境を提供し続け、地域から求められる就労支援施設を目指す。



なごみの水耕 外観



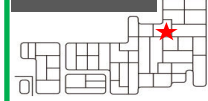
エディブルフラワー試験栽培



販売イベント対応



利用者・職員



「一から全て」、「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、畑とハウス1棟で主にハーブ類、リーフレタス、新潟在来種の野菜を、農薬・肥料・除草剤を使わず栽培し、加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で行う。農産物を加工することで長期保存を可能とし、付加価値をつけ収入アップを図るとともに、障害者の活躍の場を増やし、「やり甲斐」を育てていく。

基本情報

- 所在地：新潟県新潟市
- 団体名：農園CuRA!（ちゅら）
- 選定表彰：令和3年ノウフクアワード
フレッシュ賞受賞
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：
ハーブ、ハーブ加工品、レモン、ジャム、
ドレッシング、在来種野菜、味噌加工品
- 取得認証等：－

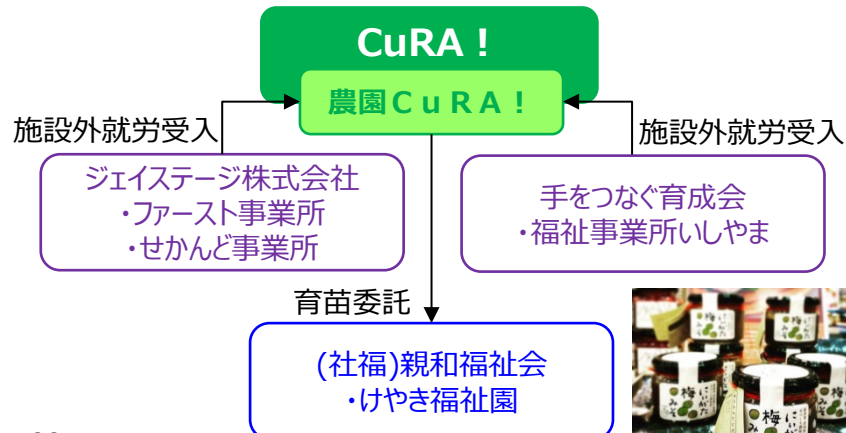


取組の概要

- 農園CuRA!は、当園スタッフと健常者1名、パート雇用2名、施設外就労受入を2箇所の事業所から行い、育苗作業を1事業所に委託し、経営している。
- 除草や耕耘等のほ場整備から播種、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程に障害者が関わり、責任とやり甲斐を感じることで、生産量・品質向上に繋がっている。
- 新潟市内の特別支援学校の生徒の受入を2018年から毎年実施し、施設外就労の利用者とチームを組み、切磋琢磨しながら協働作業を行っている。
- 周辺農家が生産している果物や野菜と、ハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャム等の加工品を製造し、県外でも販売している。
- 2019年には、輸出を視野に入れ、ロシア・フランス・シンガポールへサンプル輸出を実施。
- 2020年から複数の福祉事業所とともに、赤しその栽培から加工を施設の設備や技術に合わせた作業分担による商品製造、一般販売を行う。

項目	単位	取組当初	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
障害者数	人	3	6	10	17	7	18
農地面積	a	54	61	61	72	74	74
障害者月平均賃金	千円		24,000	139,440	338,640	211,200	366,000

体制図



取組の成果

- 障害者の得意を伸ばすことで新たにできる作業が増え、生産性が3倍以上アップし、販路拡大と売上向上に繋がった。
- 障害者就労者数も、取組当初より増加している。
(2017年：3名→2022年：18名)
- OEM、PB商品の受託が可能となった。



所在地▶新潟県新潟市江南区嘉瀬3336-4
 連絡先▶TEL:090-8724-6050 FAX:－
 E-mail:niigata_herb_cura@icloud.com
 ウェブサイト▶<https://www.facebook.com/niigata.herb.cura>



荒廃農地の増加と
地域住民の高齢化
という現状

幼少期

きっかけ

両親が経営する学習塾に通う生徒の7割～8割が障害児であったため、
周囲に障害者がいることは当たり前であった。次第に、彼等の働く環境
に疑問を抱き、「活躍の場をつくりたい！」という思いにつながった。

2017年～

大量のハーブが
欲しいという問
い合わせが度々
あった

新規就農・農福連携スタート

- 販路が確立している作物中心の農業であれば工賃が払えると考え、就農当初から施設外就労を受け入れた。
- 精神疾患のある人が香りで癒やされながら‘やり甲斐’を感じられる機会を設けたいと考え、54aのハーブ園を開始した。（施設外就労受入と援農ボランティアの受入）

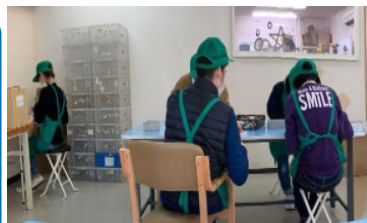


2018年～

新潟市アグリサ
ポートセンター
と江南区役所の
マッチングを利用。

加工製造をスタート。ロシア、フランスなどへ輸出を開始

- 県外にもファンを増やしていくことを目標に、フレッシュな商品よりも高単価で日持ちする加工品を一次生産と並行して製造することにした。
- 新潟県内や日本国内だけでは販路が増えたとしても頭打ちになる。世界に出荷していくことができれば、今関わっている福祉事業所だけではなく、ほかの施設なども仕事が少ない時に製造して作りだめていくことで、常に仕事する環境が用意できると考えた。



2020年～

稲作と果樹栽培は
盛んだが、色味が
ある花などが地域
にはない・・・

エディブルフラワーの生産を開始

- 高齢であっても、言葉など表現が不自由でも、「きれい」「いい香り」など感動を共有できる景色を作り出し、それを地域の高齢者やUターン組とのコミュニケーションツールの一つとして利用していきながら共生を目指している。



2023年～

新潟市12次産
業化推進計画

分散していたほ場を集約するとともに、県外の販売先を大幅増加

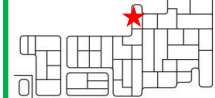
- 分散していたほ場を1カ所に集約することで、栽培管理をしやすくし作業効率を上げた。
- 商談会等に積極的に参加することで新潟県以外の販売先の開拓を進め、関西、東海地方に取引を拡大することができた。（2018年1件→2023年8件）



今後の
展望

グローバル展開・香りと彩りで明るい世界をつくる

- ハーブや花を生産する面積を少しずつ拡大し、五感で感じながら働くことができ、近隣住民もコミュニケーションが図りやすく居心地のよい職場・居住環境を作っていく。
- 積雪地帯ではハーブ等の栽培が難しい面があり、温暖な地域での農福連携を模索中。



農業法人として福祉事業所にこまつなの収穫作業などを委託。石川県の「農福連携促進アドバイザー」として、県内でのマッチング促進に貢献。また、地域農業の魅力伝え、食への関心を高めるため、小中学生の職業体験を受け入れや、総合学習や保育園での食育活動など、幅広い活動を実施。

基本情報

- 所在地：石川県内灘町
- 団体名：株式会社 笠間農園
- 選定表彰：
 - ・平成23年 中日農業賞「優秀賞」
 - ・令和元年 日本リハビリテーション学会 農福連携研究発表
 - ・令和2年 ディスカバー農山漁村の宝2020全国選定
 - ・令和4年 河北潟生産組合連合会優良生産者表彰石川県知事賞
 - ・令和5年 「ノウフク・アワード2022」優秀賞
- 主力商品：こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも等をハウス58棟(1.7h)と露地(5ha)で栽培。
- 地域の小学校から農業見学を受け入れたり、保育園への食育活動、収穫体験を実施。
- 通年でのこまつなやほうれんそうの収穫・袋詰めと、一時的な繁忙期にはそれぞれの施設の利用者の特徴を活かし、施設外就労を受け入れる。
- 作業療法士として病院に勤務していた経験を活かし、大学と共同で「農業が障害者の健康に及ぼす効果について」の医学的なエビデンスを追っている。
- 県のマッチングに立ち会い、農家と福祉をつなぐ農福連携促進アドバイザーを務める。

通年での小松菜収穫



枝豆の選別・袋詰



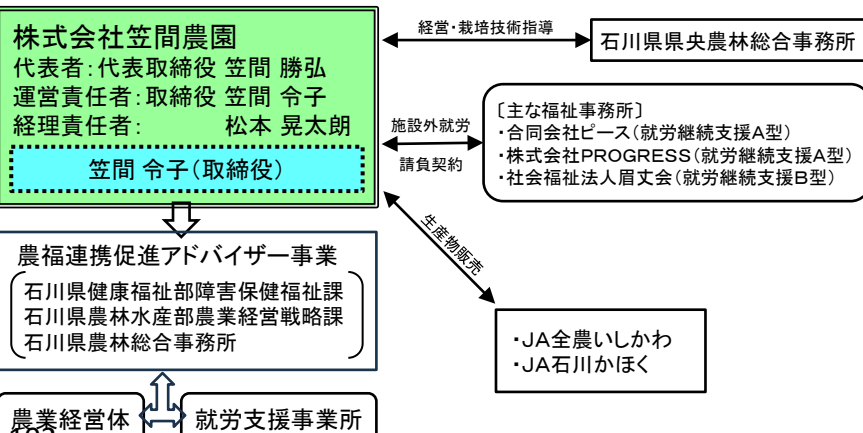
野菜たっぷり『農福おやつ』



さといも作業



体制図



取組の成果

- 施設外就労として、こまつなやほうれんそうの収穫・袋詰め作業を通年で4施設、えだまめの出荷作業では、夏2ヶ月間で6施設が携わる。
- えだまめは年々出荷量が増加するとともに、請け負ってもらう仕事量が増し、工賃単価を上げることに成功。さらに、収穫した農作物を商品化し、6次産業化にも取り組む福祉事業所が出現。
- アドバイザーを務める県事業では、令和5年度までに130件のマッチングに繋がっている。

所在地▶石川県河北郡内灘町湖西85

連絡先▶TEL:ー E-mail:komatsunanako@kasamanouen.jp

ウェブサイト▶<https://www.kasamanouen.jp>

【取組のプロセス】

農家の高齢化と担い手不足、荒廃農地の増加は続く

平成29年

きっかけ

○元作業療法士である取締役の病院勤務の経験から、自園にて高齢者が元気で健康に農作業される姿を見て、農作業にはリハビリ効果があると確信。

「畑でリハビリを！」

- 近隣の就労支援施設から、「障害者に農作業をさせて欲しい」と依頼され、受入を開始。
- 農園内のたくさんの仕事の中から、「こまつなの収穫」をお願いし、効率向上を目指す。



ほうれん草の収穫作業

平成30年

ディスカバー農山漁村の宝 全国選定

半年で「障害者も農業で活躍できる！」と確信

- 障害者が携わる作業を増やすことで、依頼する福祉事業所も増え始めた。
- こまつなの収穫・袋づめ（通年作業）に、4福祉事業所、えだまめの収穫と出荷（夏の繁忙期）には、6福祉事業所となった。また、たまねぎの苗の出荷作業にも多くの障害者が活躍している。



稲の苗箱並べ作業

令和2年

農山漁村振興交付金（農福連携対策）を活用

令和3年

石川県内にも農福連携を広げる

- 平成30年 石川県農福連携促進アドバイザー となり、マッチングの助言を行っている。
- 令和5年度までの マッチング件数は130件 で年々増えており、加賀から能登まで県内に広がりを見せている。



石川県マッチングの様子

令和5年

「ノウフク・アワード2022」優秀賞

今後の展望

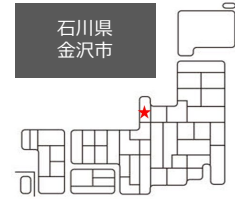
農福連携の魅力を最大限に活かし、伝え広げ実行していく。

- 農園において障害者・高齢者を含む多様な方々が活躍できる可能性を拡大していく。
- 労働力としての農福連携から一歩前進し、**心身機能向上などの農業の魅力**を追求していく。
- 平成6年1月の能登半島地震による被害は軽微で、今後も引き続き活動を継続していく。



障害者と農園スタッフ

更新年度：R5



農家・集出荷場と障害福祉サービス事業所との農福連携のマッチングを行い、双方のパイプ役として、作業内容や労働条件の確認、日程調整、作業指導などの支援を行う。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市
- 団体名：金沢市農業協同組合
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
フレッシュ賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



JA担当者と農家の打合せ



野菜の荷受け作業

取組の概要

○JA金沢市管内の農家やJA野菜集出荷場と障害福祉サービス事業所に農福連携のメリットを説明し、マッチングを図る。

○マッチングにあたり、事前に農家や集出荷場での作業内容と、障害者が行うことができる作業内容、労働条件等を確認し、連携できる相手を選定する。

○障害者の主な作業としては、水稻の田植えの際の肥料・苗運搬、育苗箱洗浄、収穫された野菜の集荷の手伝い、洗浄・計量・選果・袋詰めなどを行っている。

○マッチング後は、双方の作業日程・人数の調整、障害者が作業を覚えるための作業マニュアル（写真入り）作成、現場での作業説明等を行い、継続的な連携に向け支援を行う。

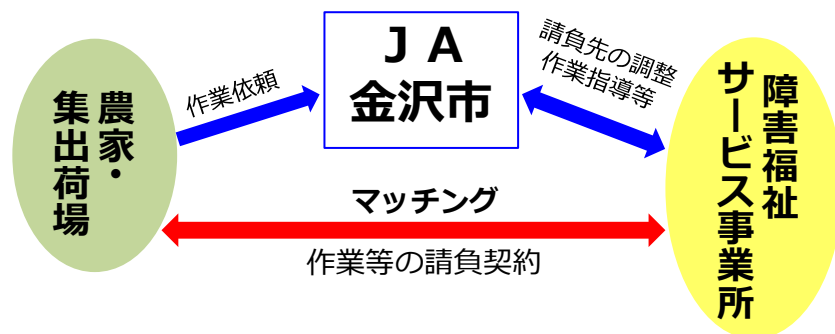


田植えでの苗箱渡し作業



野菜集出荷場での作業

体制図



取組の成果

- マッチング数の増加（平成30年度1件 → 令和5年度20件）。
- 農家や集出荷場の繁忙期に、まとまった労働力の確保が可能。
- 障害福祉サービス事業所の年間を通した労働の確保及び工賃アップ。
- 障害者に多様な作業を紹介することで、労働意欲増進。
- 連携のメリットを双方が実感することによる、地域における農福連携の取組の定着。
- 訪問先農家やJA広報誌で取組を紹介することで、他の農家に波及。

所在地 ▶ 石川県金沢市松寺町末59番地1

連絡先 ▶ TEL:076-237-0250

ウェブサイト ▶ <https://www.ja-kanazawashi.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成30年

農福連携の担当室
を設置

農家と障害福祉施設との
連携スタート

野菜集出荷場との
連携スタート

農福連携の取組を
広報誌で紹介

JA内で、農福連携
の課題についての
研修を開催

令和2年

令和3年

今後の
展望

きっかけ

- 農家や集出荷場の労働力不足を補うために、JAが障害福祉サービス事業所との連携を試みる。

JAに農福連携の担当室を設置

- 労働力不足の問題を抱える農家に、農福連携を提案。
- 障害者福祉サービス事業所に、農家への利用者派遣を提案。
- 農福連携に向け、双方の要望・条件等を確認し、利用者派遣の契約を進める。

JA管内で連携が進む

- 農家の繁忙期に、障害者福祉サービス事業所からの利用者派遣を調整。
- 初回の派遣においては、JAが作業指導を行う。
- 農作業を習得した障害者が増加し、1日当たりの派遣者数が拡大。
- 野菜集出荷場との連携を始めたことで、作業内容、作業時間が増加。

農福連携をJA内外に波及

- JA主催の農福連携事業利用の提案を行い、農家、障害福祉サービス事業所やJA職員の学習を深める。
- 訪問先農家やJA広報誌で取組を紹介することで、他の農家に波及。

幅広い農福連携を求めて

- 双方がメリットを感じることのできる農福連携を実現し、継続的な連携を目指す。
- 農福連携のメリットを地域に広める。今後、特に障害者福祉サービス事業所側の連携相手を拡大していき、マッチング機会の増加を図る。



白菜収穫指導と作業



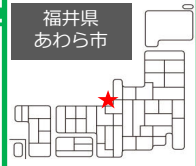
白菜選別指導



水稻苗箱洗い作業



農福連携利用計画



スマート農業を活用した農福連携を実践することで、農業を通じて障害者の働く場を提供するとともに、高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手として地域に貢献。

基本情報

- 所在地：福井県あわら市
- 団体名：有限会社あわら農楽ファーム
- 選定表彰：－
 - 令和3年度 いちほまれコンテスト「最高賞」受賞
 - 令和5年度 FUKUIふるさと納税事業者アワード「大賞」受賞
ノウフク・アワード2023準グランプリ「未来を耕す」
- 主力商品：特別栽培コシヒカリ、特別栽培マルセイユメロン、いちごジャム、米菓、あんぽ柿、あわせ柿
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- 平成13年に、障害者に雇用の方を確保することを目的として、県内の社会福祉法人から独立し、新規就農。
- 平成30年にICT（情報通信技術）によるほ場管理システム及び農業用ドローンを導入。令和4年には福井県農業試験場と共同で、スマート農業による農福連携の実証試験を行い、障害者がロボット田植え機、アシスト付コンバインを操作。高齢化・後継者不足となっている地域農業の農作業を受託し、地域の担い手となるとともに、障害者の作業領域の拡大や、雇用・就労の機会の拡大を実現。
- 農福連携の農作業を一年を通じて行うことで、就労の場を安定的に確保。



アシスト付コンバインによる
稲刈り作業



ロボット田植え機による
田植え作業



柿の摘果・摘蕾作業

体制図

有限会社
あわら農楽ファーム

- 生産部門
- 農産物加工部門
- 精米・販売部門
- 観光農園部門
- 農産物検査部門
- 農作業受委託部門
- 農業機械部門

作業受託
作業委託
生産物の販売

就労継続支援A型事業所
株式会社農楽里

- 生産部門
- 施設外就労
- 精米部門

販売

- ・直売所
- ・病院・特養施設
- ・外食産業
- ・量販店
- ・直販（自社ECサイト）
- ・自治体（ふるさと納税）

取組の成果

- 取組当初は5名だった施設外就労の受け入れ人数が10年で12名に増加。
- スマート農業機械を扱うことで障害者のモチベーションが向上、10年で5名が一般就労に移行。
- 高齢化・後継者不足となっている集落営農組織のほ場の草刈り、田植え、稲刈り等の作業を受託し、地域農業の担い手として信頼され、耕作面積が85haを超え、売上も順調に増加。

所在地 ▶ 〒919-0601 福井県あわら市山室72-101

連絡先 ▶ TEL:0776-73-5955 E-mail: info@awara-nougaku.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.awara-nougaku.jp>

【取組のプロセス】

農業生産に加えて加工販売部門を設置したことで雇用の場を拡大

平成13年

学校給食、病院、介護施設等へ食材を納入することで持続的で安定した販路を確保

平成16年

平成22年農業主導型6次産業化整備事業を活用
平成23年から観光いちご園「農楽里」を開園

平成25年

乾燥調製施設、米穀専用集出荷保管調整施設（低温倉庫）の新設

平成30年

平成25年から令和4年まで10年間で5名が一般就労

令和4年

「ASIAGAP」「ノウフクJAS」を取得予定

今後の展望

きっかけ

平成13年に県内の社会福祉法人から独立し、障害者に雇用の場を提供し、地域農業の担い手として貢献することを目的に有限会社シーネット坂井を設立

米作りと野菜・果樹の生産・加工・販売に取り組む

- 設立と同時に認定農業者の認定を受け、平成16年に米穀の出荷又は販売事業者の届け出を行い、生産から加工・販売まで障害者の自立支援に向けた農業経営に取り組む。

名称の変更

- 就労継続支援A型事業所「株式会社農楽里」設立
- 有限会社あわら農楽ファームに改称

情報通信技術の導入

- 情報通信技術（クボタKSAS）、農業用ドローンを導入することにより、電子地図を使用したほ場管理、作業の記録、進捗状況の把握など「見える化」を行い作業の効率化を図る。

スマート農業による農福連携

- ロボット田植え機、アシスト付きコンバインを導入し、障害者がスマート農業機械の操作を行うことでモチベーションがアップし、仕事に対する自信が生まれることから、一般就労へ向けてスマート農業機械を積極的に活用。

障害者等の雇用・就労拡大と地域の活性化

- スマート農業による農福連携によって障害者の作業領域の拡大、多様な農作業の経験などにより、一般就労への途を開き、ノーマライゼーションの実現を図る。
- 坂井北部丘陵地の景観を生かしたスイーツコーナーの新設、醸造用ブドウ栽培に取り組む。
- 農業体験、農産物の販売等、地域との連携を深め、地域の活性化につなげる。



スマート農業による田植え



水稻の播種作業



畦草刈作業

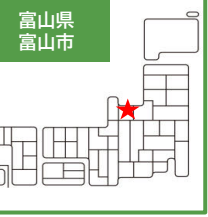


あんぽ柿の皮むき作業

地域に伝わる桑栽培のリブランディングとして、伝統工芸である和紙のパッケージによる商品開発、剪定枝のバイオマスプラスチック化等により工賃を向上。

福祉事業所

富山県
富山市



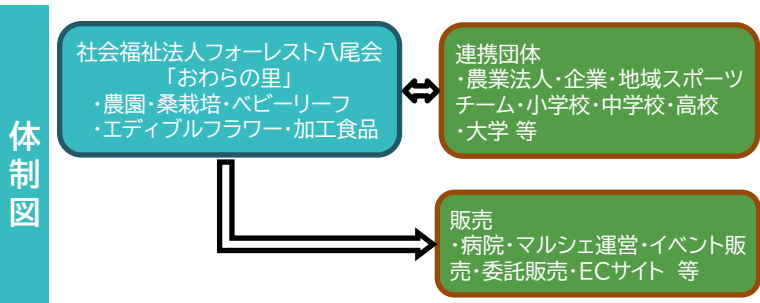
基本情報

設立: H9年 / 農福連携取組開始: H9年

概要

主力商品
(農作物) 桑、マイクロリーフ、エディブルフラワー 等
(加工品) くわ葉茶、桑の菓子 等

特徴的な取組
有機農業、自然栽培、環境保全型農業



TEL: 076-454-2117 / Mail: forest@cty8.com /
Web URL: https://forest-yatsuo.org/

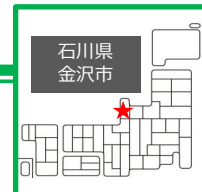
きつかけ
人
を
耕
す
取
組
未
来
を
耕
す

- H9年
- 開設当初から農作業を取り入れた就労支援を行う。町の観光産業を支えてきた「養蚕業」に注目し、桑畑再生事業と特産品開発に着手。
- 人を耕す
- 農山漁村振興交付金(R3年度)を活用し、ビニールハウスを設置。栽培したエディブルフラワー、マイクロリーフの売上が順調に伸び、利用者の平均工賃が増加。
 - 農作業マニュアルを作成し、明確化、細分化することで多くの障害者が農作業に携われるようになったほか、6次産業化を行うことで障害の種別を問わず、個々の特性に応じて作業できるため、多種多様な形で障害者が農業に関わることができる体制を実現。
- 地域を耕す
- 農作業の依頼や米粉商品のOEMの受入れにより、地域と協力することで、地域の農業に貢献。
 - 中山間地域の荒廃農地で桑の栽培・管理をすることで、景観の維持、鳥獣被害対策に寄与。
 - 高齢化で担い手のいない農地を借り受け、希少品種の水稻(シシクワズ・神丹穂)を栽培して、しめ飾りを製造・販売、日本の伝統文化を継承。
- 未来を耕す
- 企業と協働し、廃棄していた桑の剪定枝のチップとプラスチックを融合し、持続可能な商品開発を行うと共に伝統工芸「越中和紙(八尾和紙)」によるプレミアムパッケージを使用した桑茶を販売。地域の伝統文化発信・継承に貢献。
 - 地域の病院で買い物が困難な高齢者へ総菜を販売するほか、地域の企業と連携し、ファーマーズマーケットを開催して農家の販売を支援。

平均工賃月額	障害者数	売上／農園関連	売上／桑関連
14,500円(R元) →28,000円(R5)	27人(R5)	8,092千円(R元) →8,975千円(R5)	1,635千円(R元) →4,392千円(R5)

成果

- 地域の歴史や文化を背景とした商品のブランド化を図り、多くの人が関心を持つことで、農福連携の認知度向上とともに地域の伝統文化の継承に寄与。
- 栽培したマイクロリーフ・エディブルフラワーが県内のミシュランガイド掲載店で使用され、マスメディアやSNSで紹介。
- セミナーやマルシェを開催したことで地元企業、自治体など縁が広がり、農福連携の認知度向上、販路拡大を実現。



障害者が安心・安全に働ける環境に配慮したコンテナ根域制限栽培によるイチジクハウスを整備し、障害者の社会参加の機会拡大及び、自立を支援しながら、誰でも活躍できるインクルーシブ農園を実現する。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市才田町
- 団体名：農事組合法人One
- 選定表彰：－
- 主力商品：水稲、れんこん、ばれいしょ、とうもろこし、イチジク
- イベント：オンラインショップ、無印良品ネットショップ、田植え祭、One収穫祭
- 取得認証等：JGAP

取組の概要

- 水稲依存の生産体系から水田を活用した高収益な作物の生産へ転換し、持続性の高い農業を実践していく必要性を感じていたところ、地元企業からイチジクの生産を熱望され、オーダー生産に取り組もうと計画。
- 令和3年度「農山漁村振興交付金」を活用し、障害者が安心・安全に働ける環境に配慮したコンテナ根域制限栽培によるイチジクハウスを整備。
- 福祉事業所と連携し、障害者雇用により人材を確保。障害者が安心・安全に作業が行えるよう、作業工程や動線の見直し、作業の単純化、出荷規格の見える化などを図った。福祉事業者向けのマニュアルを作成し、指導者が障害者の特性にあわせた作業方法を考え説明を行うことで、利用者が行える作業の幅を増やし、効率性と安全性が向上。
- 希望に合わせて利用者に農作業だけではなく今後、販売業務にも携わってもらい、やりがいを感じてもらうことを検討する。



イチジクハウス

体制図

農事組合法人
One

株式会社トロワ
・就労支援事業所

石川県県央農林総合事務所、イチジク農家
・栽培指導支援

株式会社メープルハウス
・イチジク販売先 ・販路開拓支援

石川県高等専門学校
・作業サポートツール開発

トヨタコネクティット株式会社
・作業改善支援 ・作業マニュアル作成
・販売システム支援

取組の成果

- イチジクの栽培技術や収穫期判定ツール、生産データの蓄積、マニュアルを整備することで農作業及び農産加工の効率化や安定生産が図られた。
- 障害者が携わる作業を見直したことをきっかけに、全体の生産性や安全性も向上した。
- 代表者が経営に時間を割けるようになり、既存の作物に加え、いちじくの栽培に着手したり、生産効率を考慮する余裕が生まれた。
- スタッフの意識にも変化があり、改善事例が現場で生まれている。

所在地 ▶ 〒920-3101 石川県金沢市才田町は68番地

連絡先 ▶ TEL:076-255-1581 E-mail:one.20130201@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://www.one2013.com>

【取組のプロセス】

平成30年

人材の確保が大きな課題に

きっかけ

○ SDGs宣言を発信

「誰もが活躍できるインクルーシブ農業」を推進することで持続可能な農業を目指す。

就労継続支援B型事業所との連携

- れんこんの袋詰め作業委託から農福連携の取組を開始する。
- れんこん部門の着手を契機に、水稻の播種作業、にんにくやばれいしょの収穫、選果作業へと作業委託が拡大する。



イチジクハウス

令和3年

新型コロナの影響等により深刻なコメ余りに

農山漁村振興交付金を活用

持続性の高い農業の実践

- 水稻依存の生産体系では持続的な経営が困難であると考え、水田を活用した高収益な作物への作付転換を模索し始める。
- 地元企業からイチジク生産を熱望され、オーダー生産に取り組もうと計画する。



農事組合法人One事務所

令和4年

イチジクのコンテナ栽培に着手

- 誰もが作業できることを意識したイチジクのコンテナ根域制限栽培（試験）を開始する。
- 利用者の適正に応じた役割分担により、自発的な就労を後押しするとともに、規格外品を有効活用した加工商品の開発・販売を目指す。

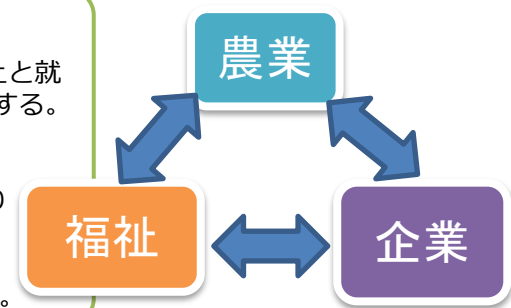


灌水システム

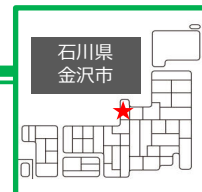
今後の展望

地域農業の維持と障害者の自立支援の両立

- コンテナ根域制限栽培を確立することで、収益を向上させ、利用者の工賃向上と就労改善につなげる。そして生産全体を任せることが出来るように体制づくりをする。
- 農業従事者と障害者と企業を連携するプラットフォームを育成する。
- 当法人への視察や既存のイベントの開催等を通じて、イチジクの産地化を図り地域の活性化につなげる。
- 農業の知識を持った福祉人材の育成環境や、農業者側の受け入れ態勢を整える。



更新年度:R5



農林漁業者の所得確保に向けてこれまで未利用な資源を使った商品開発を行うとともに、農作業・加工作業で障害者の通年の作業を確保することで工賃確保に取り組む。

基本情報

- 所在地：石川県輪島市
- 団体名：(株)奥能登元気プロジェクト
- 選定表彰：福祉未来価値創造大賞2020
ソーシャルビジネスモデル部門 金賞
- 主力商品：レトルトカレー、入浴材、
除菌スプレー
- 取得認証等：－



【レトルトカレー】

(左：輪島ふぐ 中央：能登町ブルーベリー 右：能登しいたけ)

取組の概要

○障害福祉サービス事業所から農家への作業者派遣や、農林漁業者の未利用な規格外農林水産物を活用した商品を開発し、事業所で製造して、地域の道の駅や観光地等で販売を行う。
○障害者は、田植えや野菜の定植、ほ場の除草などの農作業のほか、商品の具材カットや煮込みの加工作業を行うなど、通年の労働を確保。



木くずチップで製造された商品（左：除菌スプレー 右：入浴材）

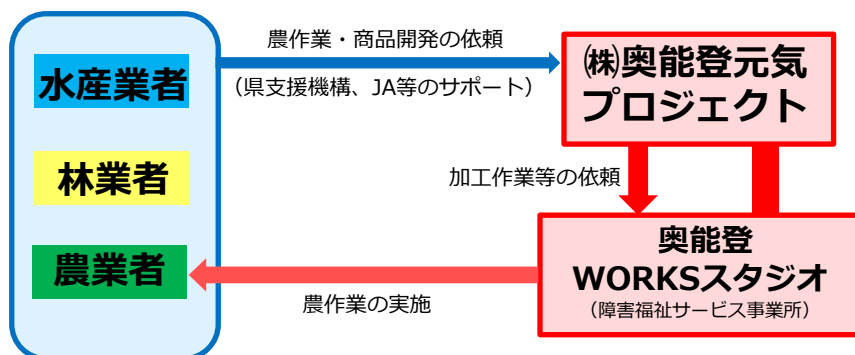


農家への作業者派遣（田植え）



事業所内調理加工場での作業

体制図



取組の成果

- 障害者の雇用創出と農林漁業者の所得増加
- 商品が増えたことで、障害者の作業時間が長くなり工賃アップ（月平均工賃約5,000円増）
- 地域での活動が増加するとともに、林業・水産業との連携が広がる



販売イベントの様子

所在地 ▶ 石川県輪島市里町1字6番地1

連絡先 ▶ TEL:0768-34-1350 E-mail:ogp-2@ca1.wannet.jp

ウェブサイト ▶ <https://okunoto-genki.com/>

【取組のプロセス】

平成29年

レトルト加工品の
商品開発に着手

平成30年

事業所に、レトルト
機や真空調理機
等を設置

令和元年

令和2年

商品を道の駅や観
光地で販売

農福連携の取組が
ニュース番組に取り
上げられる

今後の
展望

きっかけ

○奥能登地域の農家から規格外のブルーベリーの活用について相談を受けたことから、奥能登地域で農福連携の活動に取り組みたいと考えた

（株）奥能登元気プロジェクト 設立

○代表は、金沢市及び白山市において、建築業と福祉事業を営み、以前から福祉施設利用者による、建築現場から出る端材や規格外の野菜を利用した商品の開発・製造・販売に取り組んでいるが、奥能登地域の農家から相談を受けたことがきっかけで、輪島市で法人を設立。

障害福祉サービス事業所「奥能登WORKSスタジオ」を開所

○障害者が就職するために必要なスキルを身につける就労移行支援事業所として「奥能登WORKSスタジオ」を開所。

農・林・漁福連携による商品開発・製造・販売

○就労継続支援B型事業を開始。

○規格外農産物を使ったレトルト食品の開発と商品の包装を施設で行うことで、農家の所得と障害者の工賃を確保。（小ロットから受注することで農家の挑戦を後押し）

○これまでに「能登町ブルーベリーカレー」「能登しいたけカレー」「輪島ふぐカレー」などのレトルト食品のほか、能登の木材「あての木」を使用した入浴チップなども商品化。

○また、令和5年夏にカフェ「ココハサトマチ」をオープン。被災したものの速やかに営業再開にこぎつけ、食事や商品を提供中。

農林漁福連携で奥能登地域の活性化を

○過疎化が進み、1次産業の後継者も減っているふるさとの奥能登地域の里山里海を元気にしたい。

○障害福祉サービス事業所と1次産業が連携することで1次産業の人手不足や後継者不在の問題を解消するとともに、将来的に就職を希望する施設利用者と一般企業とのマッチングを行い、地域の活性化につなげる。

○震災で甚大な被害を受けたものの、取り組みを継続して明るい情報を発信し続けることで、地域に希望を届けたい。



加工品の袋詰め作業



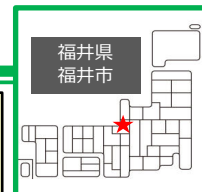
ブルーベリーカレー



ココハサトマチ



除菌・除ウイルススプレー

福井県
福井市

福井県福井市にある「C&Cサービス」は、リハビリが終わった統合失調症やうつ病患者の職業復帰を目的として、平成25年に設立した就労継続支援A型事業所。現在は、精神障害者約9名が、農園「こころファーム」において、椎茸の菌床栽培や野菜の減農薬又は有機栽培を通年で行うことで障害者雇用の拡大を図る。また、市内の精神科病院とも連携しリワークプログラムの実施のための、障害者の受け入れを積極的に実施している。

基本情報

- 所在地：福井県福井市
- 団体名：特定非営利活動法人こころ
- 取組パターン：グループ内連携型
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸、ほうれん草、こまつな、ベビーリーフ
- 取得認証等：ノウフクJAS

営農作業



椎茸菌床堆肥



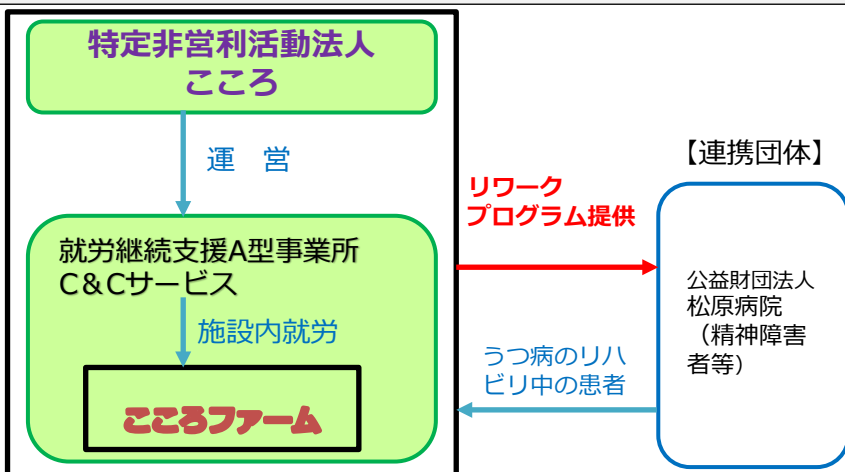
取組の概要

- ◆ 農園「こころファーム」では、椎茸の菌床栽培や、ほうれん草、こまつな等の生産を農福連携により施設園芸で取り組み、9名の障害者の就労の場を生んでいる。
- ◆ 主な作業内容は、椎茸の収穫、選別、間引き、クリーニング（菌床棚洗浄、菌床のカビの除去）、葉物野菜の収穫、洗浄作業。
- ◆ 病院や福祉施設での訪問販売。
- ◆ 連携団体である「精神科病院」からのリワーク（復職）を目的としたリハビリのための農業プログラムの実施。
- ◆ 就労支援やリワークプログラムの修了者を支援するため、生産物の買い取り及び販売の請負。

取組の成果

- ◆ 全体的な生産量（椎茸・葉物野菜）は、ここ5年間ぐらいで大きく拡大しており、椎茸では約2倍の生産量となっている。また、野菜を含めた全体的な売上額も5倍近くに増加している。
- ◆ 生産量が増加したことにより、連携する就労継続支援B型事業所への作業委託を増やすことができ、作業効率が良くなり生産性も向上している。
- ◆ リワーク（復職）を目的とした農作業のリハビリにより、取り組み当初から21名の復職と2名の就農を実現している。
- ◆ 農福連携に取り組みたい福祉事業所からの視察がふえており、モデル的存在になりつつある。

体制図



所在地 ▶ 福井県福井市文京2-10-4

連絡先 ▶ TEL:0776-63-6711 E-mail:cocorofarm5560@gmail.com

ウェブサイト▶ー

【取組のプロセス】

農業によるリハビリ、障害者の雇用拡大を図る。

平成27年

きっかけ

平成25年設立の就労継続支援A型事業所は当初、事業は清掃部門のみであったが平成27年に関係病院が運営していたほ場（ハウス園芸）を引き継いだことにより障害者が農業を通じてリハビリを行い、さらには障害者の雇用拡大、農業での収入確保を図りたいと農福連携を開始。

平成28年

（農業拡張期）

- 以前より、精神障害をもつ障害者が農作業を行うための配慮事項や、訓練ではなく雇用を維持するため、冬季でも継続して通年稼働できる農業の方法等の課題に取り組んできた。
- 平成28年5月、ハウス2棟を拡張し、ほうれん草の増産に取り組む。
- 平成28年10月、坂井市に新たに農地を借り、ベビーリーフなどの栽培に着手。



園芸用ハウス

平成29～30年

リワーク開始

（ハウス倒壊と再生・リワーク受入れ開始）

- 平成29年10月の台風と平成30年1月～2月の大雪でハウスが倒壊。
- 平成30年10月、農山漁村振興交付金により基盤整備、ハウス再建を実施。
- 椎茸菌床栽培開始。
- 関係病院からのリワーク（復職）希望者の受け入れ開始。



椎茸菌床栽培

ノウハウJAS認証取得

令和2年

（障害者雇用と販売の拡大）

- 現在は9名の障害者により、椎茸、ほうれん草、こまつなの栽培に取り組む。
- 小売店や病院、福祉施設での販売にも力を入れ、販売額を伸ばしていく。
- 施設整備にコストがかかることから、支援事業の積極的活用。



葉物野菜の作業風景

令和6年

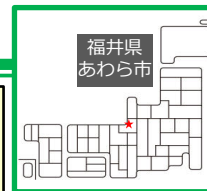
（福祉事業所でつくるネットワーク）

- 農福連携に取り組んでいる他の福祉事業と連携して、生産・流通・販売ネットワークが可能となる福祉事業所が運営する農業組合的な組織ができれば良いと考える。
- JGAPの認証を取得し本格的に生産・流通に対応することで、事業の安定化と障害者雇用の更なる拡大を図る。



企業での訪問販売

今後の展望



農業に特化した就労継続支援B型事業所として、直売所の運営、農産加工品の製造・販売に取組み工賃向上を実現。地域の農業振興及び活性化を図り、良質で安全安心な商品づくりをめざす。

基本情報

- 所在地：福井県あわら市
- 活動地域：平地農業地域
- 団体名：特定非営利活動法人ピアファーム
- 選定表彰：
 - ・ H26 第6回耕作放棄地発生防止・解消表彰事業・全国農業新聞賞（主催：（一社）全国農業会議所）
 - ・ H27 第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞（主催：（公財）ヤマト福祉財団）
 - ・ H29 ディスカバー農山漁村の宝 第4回全国選定（主催：農林水産省） etc.
 - ・ R2 ノウフク・アワード2020優秀賞
- 主力商品：梨、ナシジュース、ぶどう、ワイン
- 取得認証等：認定農業者、ASIAGAP

取組の概要

- 高齢化で担い手不足のナシ農園を引き受け、耕作放棄地も再生し、ブドウ及び野菜を栽培。現在の耕作面積は6.5haで次年度以降も拡大予定。
- 安全な農産物、環境に配慮した農業、生産者の安全と事故防止を徹底。
- 晩生梨を使った梨ジュース、醸造用ブドウでワインも製造販売実施。
- 観光農業公苑として「癒しの果樹園あわらベルジェ観光ブドウ園」を開設、4,600人の来苑者や修学旅行の生徒も受け入れ。
- 市内外の農業者180戸が出荷する地産地消を推進する農産物直売所2か所の設置、地域に愛されるスーパー（お店）を展開。



ナシの栽培、収穫作業をするメンバー

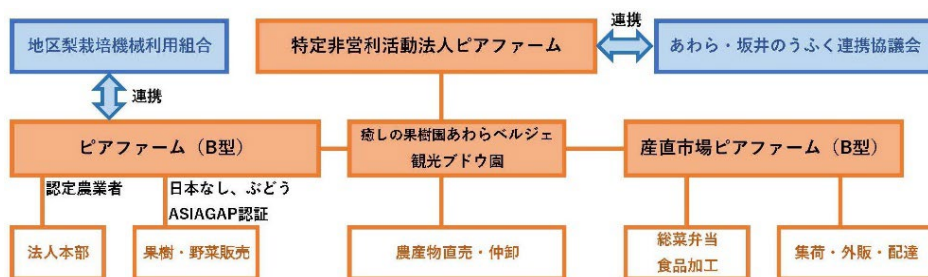


観光ブドウ園で子どもたちの収穫体験



耕作放棄地の開墾作業

体制図



取組の成果

- 生食ブドウについては、22品種を栽培。年間90日以上の出荷。
- 梨とぶどうのジュースは、H28年以降、毎年約1,000本～1,500本を販売、ふるさと納税の返礼品として好評を得る
- 平均事業収入は、栽培と販売を合わせて年間7千万円程度。



6次化、ナシジュース



直売所店内で働くメンバー

所在地 ▶ 福井県あわら市波松68-87-2

連絡先 ▶ TEL：0776-79-1830 FAX：0776-79-1831 E-mail：info@peerfarm.jp

ウェブサイト ▶ <http://peerfarm.jp/>

【取組のプロセス】

新たな事業として、障害者が生き生きと働いている農場をイメージ。

2007年～

果樹栽培に取組むとともに農産物販売にも力を入れ、生産者、販売事業者との連携を築く。

2008年～

生食ぶどうは22品種、梨は12品種を栽培。

2009年～

ピアファームと産直市場ピアファームとで農産物の生産と販売を通じて利用者の工賃向上を実現。

2014年～

醸造用ぶどうの定植

事業体制の承継等を準備

今後の
展望

きっかけ

地域の耕作放棄地や梨園の廃園という現状から、農業に特化した障害者の就業の場づくりに挑戦

農業に特化したピアファーム就労継続支援B型事業所創業

- 平成20年、農業に特化した就労継続B型事業所、ピアファーム就労継続支援B型事業所（定員20名）を創業。メンバー（利用者）の工賃向上を農産物の栽培生産と販売を通じて実現する。

夢の果実農産物直売所営業開始

- 利用者の職域拡大のため、直売所の経営を開始し、約160の契約個人農家・団体の農産物や加工品の販売も行い、地域に信頼される「みんな笑顔で逢いに来るお店」を目指す。
- 平成21年、坂井北部丘陵地で後継ぎのない梨園を引継ぎ、幸水、豊水、新興、新高、愛宕等12品種を栽培・販売、高品質を維持するため手作業を多く取り入れることで、障害者の作業創出も図る。
- 平成22年、ハウス2棟でぶどう栽培に着手。
- 平成23年、あわら市認定農業者の認定を受ける（北陸農政局管内(福井・石川・富山・新潟)で特定非営利活動法人初の認定)

観光農業公苑「癒しの果樹園あわらベルジュ」開園で交流人口増

- 平成25年、生食ぶどう（シャインマスカット、ピオーネ、サニールージュ等）に加えて醸造用ぶどうの栽培にも着手。
- 平成26年、産直市場ピアファーム就労継続支援B型事業所（定員20名）の営業開始。
- 平成27年、観光ぶどう園あわらベルジュを開園（海外からも来園）。

事業体制の承継等を準備し、就労支援や地域農業の振興を図る。

- 施設の整備等に取り組み、更なる利便性の向上を図る。
- 高齢者雇用にも取組み、地域との更なる連携を図る。
- ふくい農福連携ネットワーク「のうふく実践ネットワーク」の企画交流を通じて、果樹を活用した、園芸療法の試行。

